

近代日本におけるマッサージ医療の導入

和久田 哲 司

〔要旨〕近世のヨーロッパに発達したマッサージ医療は、日本には一八八〇年代から一八九〇年代にかけて初めて取り入れられたとされている。この導入状況を明らかにすべく検討を試みた。一八八四年に陸軍軍医総監橋本綱常がヨーロッパの医制を視察しており、オーストリアの“Dr. Albert Reihmayr”著の挿し絵入りのマッサージ書“Die Technik der Massage”を手に入れて、それを日本に持ち帰った。このマッサージ書にもとづいて、陸軍軍医官長瀬時衡は、これを実践してその優秀性を確認し、このマッサージ医療を普及させるために、この書を翻訳し刊行した。筆者は、近代日本に最初に導入されたライブマイルのマッサージ医療の内容を、彼の挿絵入りの書からここに示した。

キーワード——マッサージ医療、導入、橋本綱常、ライブマイル、“Die Technik der Massage”

はじめに

近代国家を目指す明治期において、医学界では西洋医学が取り入れられると共に、マッサージ医療も次第に導入されていった。元来、日本の手技療法は中国から伝来した按摩法が民間に広く行なわれていた。それは中国の古典理論、陰

陽五行説に基づくものであった。そのために、近代科学に裏打ちされたマッサージが按摩法に代わって新しい医療技術として急速に受け入れられてきたのであった。

マッサージが日本に初めて導入された時期として有力なものは一八八五年(明治十八年)に陸軍軍医総監橋本綱常がヨーロッパからマッサージ書を持ち帰ったのが最初とするもの^①、もしくは一八九三年(明治二十年)に陸軍軍医監長瀬時衛が病院を開設して開始したのが始めとするものなどである^②。しかし、このように西洋から伝来したマッサージ医療が、どのような契機でもたらされ、どのようなものであり、どのように発展してきたのかについては今日あまり明らかでない。

そこで、当時の西洋事情を踏まえてマッサージ医療の伝来状況と導入されたマッサージ医療について考察を試みた。

一、東洋按摩と西洋按摩

我が国にマッサージ医療が導入された明治時代には、西洋からもたらされた「マッサージ」は、伝統的に行われてきた「按摩法」に匹敵するものであると見なしていた。一八九三年(明治二十年)に長瀬時衛は「按摩法」^③の中で、

「[マッサージ]ハ希臘ノ「マツシー」ト云フ語ヨリ轉訛シ來ル「マツシー」ハ揉ト云フ義ナリ 余ハ別ニ考フル處アリテ東洋按摩考ニ論明ス 今日歐洲ニテ施ス所ノ「マツサージ」ハ摩擦、叩打、揉捻運動等ヲ總釋ス故ニ之ヲ概シテ揉和スルト云フハ名義相當ラズ寧ロ機械的療法ト呼ブヲ當レリトス襲用ノ久シキ遽ニ改ムル能ハズ由テ余モ亦之ヲ西洋按摩ト稱ヘテ暫ク世人ノ了解シ易キニ從フ」

と述べて、従来の手治療法を「東洋按摩」もしくは単に「按摩法」と呼び、「マッサージ」を「西洋按摩」あるいは「摩擦術」などと呼び分け、これを区別していた。

一方、当時の本邦「按摩法」に対する認識は、一八九五年(明治二十年)に河内全節が解説した「按摩史料」^④に見るこ

とが出来る。

「病痾ヲ治療スルニ湯液碱砒ノ外ニ身體ノ患部ヲ按摩シテ其ノ疼痛ヲ止メ其ノ痞塊ヲ通シ又癖塊ヲ銷スルノ手術是ヲ按摩術ト云フ漢土ニハ上古ヨリ有リテ素問ニ按之摩之按摩之トアリ又按蹻トモアリヌ…(中略) 我カ帝國ニテ按摩ノ史ニ見ヘタルハ孝徳天皇ノ醫官ノ制度ヲ定ラレシ時典藥寮ヘ按摩師ヲ置レタリ此ヨリ先キ外藥司ニモアリヤ詳カナラス是ヲ以テ始トス」

「元和寛永ニ至リ世ハ太平至治トナリ漸ク人々安佚遊惰ニナリ為ニ些少ノ勞働ニモ身体疲勞シ為ニ從者ニ四肢ヲ按摩サセテ其勞ヲ除カシメ又行旅ノ人ハ一日ノ勞ヲ彼ノ腹取ニトラセシヨリ遂ニ按摩業起リテ男子モ是ヲ爲スニ至リシナラン」

と、江戸期になつて盛んとなつた様を示し、

「今、按摩ノ看板ヲ見ルニ按摩、按摩、筋揉、筋揉、導引、足力ナトアリ。按摩、筋揉ハ皆按摩術ヨリ出タル者ナリ。」と、明治期の様子を紹介する。

いわゆる、我が国の按摩法は、古代中国にその端を發し、我が国には古代に伝來した。中世の医書や文学書には「按摩」の名称は見られないが、近世・江戸期になつて民間に広く普及する中で、治療や産科術にも応用されるに至つた。明治期には「按摩」は様々な名称で民間において広く行われていた状況が伺われる。

二、橋本綱常の果たした役割

(一) 一八七〇年代から一八〇〇年代における欧州のマッサージ事情

一八七〇年代のヨーロッパにおけるマッサージ医療の状況を一八九三年に“Dr. Albert Reibmayr”によつて刊行されたマッサージ全書第五版から見る事が出来る。その序に⁵⁾

“Die glänzenden Resultate, welche Dr. Mezger mit der Massage erzielte, verschafften ihr nun in kurzer Zeit eine grosse Verbreitung.

Zunächst also beschäftigten sich die Aerzte Hollands, Schwedens, Norwegens und Dänemarks mit ihr und veröffentlichten eine grosse Anzahl günstiger Resultate. In den Siebzigerjahren fingen auch die deutschen und österreichischen Professoren und Aerzte an, sich mit der Massage zu beschäftigen, und da wären vor Allen zu nennen: …(中略)… so gibt es leider, besonders bei uns in Oesterreich, noch eine nicht kleine Menge überdies ganz tüchtiger praktischer Aerzte, welche die Massage nur dem Namen nach kennen, …”

と、著者“Reimayr”は、一八六〇年代にオランダの“Dr. Mezger”が生理学的にマッサージの有効性を認めて以来、オランダ、スウェーデン、ノールウェー及びローマの諸大家は“Mezger”と共にこの法を研究し、一八七〇年の頃に至りドイツ及びオーストリアの教授や医家等もマッサージ術研究に従事し、特にドイツにあつては次々と実践研究が深まっていったさまを著している。しかしながら自国オーストリアでは諸学の名家中、未だマッサージ法の名称を耳にすることなくオーストリアでのマッサージ医療の遅れを指摘している。

また更に詳しくは河合杏平が『西洋按摩術講義應病編』⁽⁶⁾「按摩術について」の中で、

「按摩療法は七十年の始めに至る迄少數の著述と新聞雑誌に掲げらるるのみにして其方法を實地に行ひしは瑞典の外は一ニ専門家のみ此専門家は殊に外科の治療に當り間々成績の驚くべきを公示して有名なる醫學大家を呼覺し獨逸の外科『クリニック』に於て益々攻究せられ之が應用を定め新治療法の區別を擴張せり」

とマッサージ医療の状況を記している。

(二) 橋本綱常の渡航とマッサージ書

一九〇二年(明治三五年)に長瀬時衡・佐伯理一郎が著した『マッサージ治療法』の長瀬時衡の緒言に⁽⁷⁾

「我本邦ニ傳ヘシハ宮内省御用掛陸軍軍醫總監男爵橋本綱常君ナリ、君明治十八年君命ヲ奉シ欧米ニ使シ各国ノ醫政ヲ取調ヘラルノ際各地病院ニ設置スル「マッサージ」治療室及其手術ヲ目撃シ其時維納府ノ「マッサージ」大家ノライフメル氏論説竝ニ其著書ヲ得テ歸朝シ其書其術ヲ足立寛君竝ニ余等ノ一人(長瀬)ニ付シ之ヲ研究セシム」とある。

陸軍軍医總監橋本綱常⁽⁸⁾(一八四五年生〜一九〇九年没)は越前福井の類代の医家に三男として生まれ、長男は勤王の志士橋本左内である。一八七八年(明治十一年)に東京大学医学部教授、一九〇五年(明治三八年)に陸軍軍医總監となつてゐる。

綱常は二度渡欧しているが、最初は一八七二年(明治五年)七月から軍医制度の調査の官命を受けドイツ及びオーストリアにおいて外科と内科を修得して一八七七年(明治十年)六月に帰国している。

前述のごとく、この時期はドイツ、オーストリアではマッサージ研究が始まったばかりであつたから、この留学ではマッサージに関する情報は十分ではなかつたであろう。

二度目の渡欧は一八八四年(明治十七年)二月十六日、大山巖陸軍卿の欧州軍兵制視察に随行してドイツ、イタリアを訪れ一八八五年(明治十八年)一月二五日に帰国している。この時には、ドイツにおいてはマッサージ医療の研究が盛んで諸大家の研究やクリニックでの臨床が行なわれていた時期であつた。従つて、(維納府ノ「マッサージ」大家ノライフメル氏論説竝ニ其著書ヲ得テ歸朝)とあるのは、この二度目の渡欧の際にマッサージ書を手に入れたものであつた。

綱常が持ち帰つた維納府ノ「マッサージ」大家ノライフメル氏の著書とは、果たしてどのような書であつたらうか。

(三) 橋本綱常の持ち帰つた『萊氏按摩術』

一八九三年に長瀬時衡が刊行した『西洋按摩小解』の附言に⁽¹⁰⁾

「余曩ニ廣島ニ在リ。同學諸士ト凶リ博愛病院ヲ設ケ各科ヲ分テ患者ヲ治療ス。余ハ婦人科ヲ擔當ス。子宮轉位愈着

屈曲等ノ症ベツサルユムノ種類及ヒ他ノ治術一モ寸効ナキヲ苦シム。一年上京ノ日之ヲ橋本綱常先生ニ質ス。先生曰眞ニ然リ。唯按摩ノ一術之ヲ能スルアラン。余喜ンテ教ヲ乞フ。乃チ萊氏按摩術ヲ出シテ示サル。曰ク此書簡短ニシテ未タ盡サザルモ之ニ由テ習熟セハ或ハ良績ヲ得ルコトアルベシ。余携帛テ講究シ果シテ奇術ノ價値アルヲ了知ス。：(中略) 神驗奇効誠意想ノ外ニ出ツ。歡喜ノ餘リ自ラ揣ラス。萊氏按摩術ヲ翻譯シ同志ニ頒ツ。」

と、時衡は綱常から託されたマッサージ書に基づいて、広島博愛病院の産婦人科等においてマッサージ術の効果の大きなることを確認し、この技術普及のために『萊氏按摩術』を翻訳刊行した事情を述べている。

そして、この翻訳書『萊氏按摩術』の時衡自らの附言に

「西國按摩術ニ係ル書類今日ニ印行スルモノ二百部ニ止マラス就中名聲アルモノハ佛醫ノルストロム氏ノ按摩學説治療書 一千八百九十一年刊行 日爾曼醫博士スユライベル萊氏按摩術第二版 一千八百八十八年刊行 奧國醫博士ライフマイル氏カ其全書中ヨリ要領ヲシ圖式ヲ加エテ初學ニ便ニシ世ニ頒チシカ各國名流ノ高評ヲ得テ醫家ノ寶珠ト稱ス一千八百八十九年全氏更ニ實動醫療術ヲ加ヘテ第二版ヲ公行セシモノナリ其文簡易ニシテ遺ス所ナリ學者之ニ由テ習熟セバ其奧妙ヲ究ムル復難キニアラザルベシ」

と、翻訳書冊子の刊行の由来を解説している。

この刊行の由来については、"Dr. Albert Reibmayr" が刊行した "Die Technik der Massage" に見ることが出来る。この初版本は残念ながら未だ我が国では現在見ることが出来ないが、その第五版はオーストリアの国立図書館に所蔵されている。この第五版には初版の序と第五版の序が掲載されている。これにより初版は一八八四年三月に刊行され、後に第二版が前記の翻訳書序が示すように「實動醫療術」の篇を加えて一八八九年に、そして一八九二年に第五版が出版されている。

この原書第五版に掲載されている“Reibmayr”の初版の序には、時衡が翻訳書の序において、図解冊子の刊行の由来を説明するように、

“Es war ursprünglich beabsichtigt, bei Gelegenheit der zweiten Auflage meiner ersten grösseren Arbeit: “Die Massage und ihre Verwerthung in den verschiedenen Disciplinen der praktischen Medicin”, den technischen Theil derselben ausführlicher zu bearbeiten und demselben Illustrationen beizugeben. ...”

と、先に刊行したマッサージの全書版から、初学者の実習のために初めてマッサージの技術をイラストをもって編集し、マッサージ技術の普及に努めようとした意図を、“Reibmayr”は自ら明記している。

これらの記述から、時衡が翻訳した原著はオーストリアの“Dr. Albert Reibmayr”が刊行した“Die Technik der Massage”であった。

また、“Reibmayr”は一八八二年にマッサージの全書版“Die Massage und ihre Verwerthung in den Verschiedenen Disciplinen der praktischen Medicin”の初版を著し、一八八九年には第四版、一八九三年には、その第五版を刊行している。⁽¹²⁾

綱常が二度目の渡欧中に、この全書版（一八八二年初版）を手にすることは出来たであろうが、この全書版第五版は、一八九五年（明治二八年）に帝国大学医科大学教授・陸軍軍医監 足立寛等によって『萊氏按摩新論』（別名、泰西按摩新論）⁽¹³⁾として翻訳され刊行されている。

従って、橋本綱常が帰国した一八八五年一月から見て、綱常が持ち帰ったマッサージ書は、長瀬時衡が翻訳した原書、オーストリアの“Dr. Albert Reibmayr”が一八八四年に著作した“Die Technik der Massage”（初版）であったことが解る。⁽¹⁴⁾

iii) “Die Technik der Massage” にみる “Reidmayr” マッサージの概要

(1) “Die Technik der Massage” (第五版・一八九二年刊行) と翻訳書『萊氏按摩術』(一八九三年、明治二六年) との比較

原著第五版と、その翻訳書における図解の取扱いについて見ると、原著では図総数二四四図の中、第一編の “Technik der Massage” (「按摩法及び虚動法」) では一五五図(術七〇図、機械器具二三図、他動運動六二図)で、第二編の “Heilgymnastik” (「實動醫療術」) では八九図(自動運動六七図、機械器具二二図)である。

これに対して翻訳書では図総数二二六図の中、第一編では五九図(術三九図、機械器具二二図、他動運動八図)で、第二編では六七図(自動運動六七図、機械器具〇)となっている。

なお、翻訳書には原著と異なる図解が産科の図二六「妊娠子宮壓出法」・図二七「妊娠子宮の按摩法及び壓出法」や虚動図五五・五六・五八など数図が見られる。

第一編は、初版に記述されたもので、第二編は、前記したように一八八九年(明治二年)に “Reidmayr” が再版のおり、治療体操作を「實動醫療術」として加えて第二編としたものである。長瀬時衡らが翻訳に当たって、第一編においては図をかなり精選していると共に、少図ながら産科では我が国の「按腹」の手法を独自のものとして組込んでいる点は興味深い。また、第二編においては、治療体操作は全て紹介するのに機械器具の応用に関しては全て省略している。これは、機械器具の構造・機能や具体的使用法が不明であったためとも推察されるところである。

(ii) “Die Technik der Massage” に見る “Reidmayr” のマッサージ技術

“Die Technik der Massage” (第五版) 及び『萊氏按摩術』は、表1、表2の内容項目から、“Reidmayr” のマッサージ技術を見ると、以下のような特徴が見られる。

表 1 “Die Technik der Massage” INHALT¹⁵⁾

I. Massage.	
Einleitungsmassage	3
Einfache Massagehandgriffe	9
Hals- und Kehlkopfmassage	34
Massage der Lunge und des Herzens	46
Unterleibsmassage:	
Bauchmassage	50
Massage der Niere und deren Umgebung	68
Massage der Blase	70
Massage der Prostata	71
Massage der Wände des kleinen Beckens	71
Massage des Uterus und seiner Adnexa	73
Massage des Auges	116
Allgemeine Körpermassage	123
Massage mit Instrumenten und Maschinen	128
Allgemeine Bemerkungen	150
II. Heilgymnastik.	
Allgemeines	171
Passivbewegungen	179
Widerstandsbewegungen	194
Activbewegungen	227
maschinelle Heilgymnastik	247
Literatur-Verzeichniss	
	269

ア、一八〇〇年代のヨーロッパにおいて、マッサージ医療が近代医療として確立されようとした過渡的な時期を反映して、マッサージ手技の名称は近代マッサージの発祥に従ってフランス語で著され、運動法 “Bewegung” の名称は発展を見せたドイツ語で示されている。

イ、マッサージの手技は、それまで徐々に分化、多彩となっていた手法を、オランダの “Mezer” の提唱する四法¹⁵⁾に従って、“Effleurage” (軽擦法)、“Massage a Friction” (摩擦法)、“Pétrissage” (揉捏法) 及び “Tapotement” (叩打法) の四法に整理し、それぞれの治効とテクニック並びに医事応用を述べる。

表 2 『萊氏按摩術』目次⁽¹⁶⁾

第1編 按摩法及虚動法	
第1章 按摩術通論	1丁
第2章 頸部按摩法	13丁
第3章 腹部按摩法	21丁
第4章 子宮及其属部按摩法	31丁
甲 不妊時子宮按摩法	31丁
乙 妊娠時子宮按摩法	39丁
丙 産後子宮按摩法	53丁
第5章 眼球按摩法	59丁
第6章 全身按摩法	67丁
第7章 用器按摩法	69丁
第8章 按摩法注意	85丁
第9章 虚動法	110丁
第2編 實動法	
第10章 実動法通論	116丁
第11章 実動法各論	126丁
第1類	127丁
第2類	127丁
第3類	128丁
第4類	129丁
第5類	130丁
第6類	132丁
第7類	135丁
第8類	138丁

ウ、炎症などへの“Einleitungs-massage”(端緒マッサージ)の効果を強調する。その手法は、炎症などの患部より中枢に向かって摩擦や揉捏を施行するものである。重症の関節捻挫などの準備手法として、その効用を説く。

エ、マッサージの治効理論として、一八世紀から一九世紀にわたるドイツを中心に発達した解剖学、特に生理学的研究を基に各手技の有効性を立証する。“Reibmayr”のマッサージにおいては、総括的な作用を示すことなく、各手技に従って生理学的効果を述べている。あえて、これを要約すれば、マッサージは機械的・反射的作用を通して、循環機能の改善や各種の生理機能を高め、ひいては全身の新陳代謝を促進する。皮膚

及び内臓に係わる体壁反射については、未だ十分に捉えられていない。

オ、従って、その手法は頸部、腹部及び全身へのマッサージ効果を重視するとともに、頸部マッサージの効果として“*Weiss*” “*Gerst*” 及び“*Höfinger*”の頸部マッサージを示し、大静脈の誘導及び深呼吸法による小循環の促進を促し頭部の循環の改善に有効とする。

腹部マッサージの効果としては腹部の直接的な機械的效果と反射的效果によって、循環器への影響及び圧迫術による蠕動運動の促進、消化液分泌の昂進を認める。腹部施術として、“*Reimayr*”は独自に腹部を体表面、中層の筋部及び深部の内臓の三部に分けて、第一手技から第三手技として、それぞれに施行することを推奨する。

全身マッサージの効果としては、「人体の生理的機転上、鮮やかな効用あり」として、血行とリンパの流動は一局部にとどまらず、全身に影響する。これによって、新陳代謝旺盛となり、多数の生理的機能を高める。

カ、“*Bewegung*” (運動法) をスウェーデンの“*Ling*”らの体操法から、マッサージ術に併用することを推奨し、“*Bewegung*”を“*Passive Bewegung*” (他動運動法) 及び“*Active Bewegung*” (自動運動法・抵抗運動法) に大別して、特に他動操作“*Passive Bewegung*”の有効性を提唱する。

キ、“*Allgemeine Körpermassage*” (用器マッサージ)、徒手による手法及び運動法に加えて、様々な機械器具あるいは水治療法としてブリーニッツ罨法などを併用する。原本の“*Hüb*”には、多数の機械器具が紹介されているが、その翻訳書には省略されており、我国では実際には余り応用されなかつたものと思われる。しかし、“*Reimayr*”は、この項の末文において、様々な機械器具や治療体操が併用されるが、「巧妙なる徒手以上の名器はなし」と、手技の優秀性を主張する。ク、マッサージ治療法を理学療法の一分野として水治療法、温熱療法及び電気療法などと併用して、内科、外科、産婦人科、及び眼科・耳鼻科での臨床応用を説く。

内科的疾患は深部のため、反射や電気的な間接的作用で直接的作用は少ない。マッサージの効果は本来、全て血行障

害によって発生する全身諸症状にこの術の機械的作用をもって最も良好な治法であるとする。

外科領域は多くは身体の浅表に発し、従って、マッサージ療法に適するものは非常に多い。その適応は初期の外傷性炎症及びその属症であり、各種の急性慢性の運動器疾患となる。

各国でマッサージが産科に應用されるようになったのは、極めて古く産科術とその起源をほとんど同じとされる。その應用としては陣痛の促進、胎児の変位の整復、胎盤の退出法などの産出法が示されている。また、シーボルトの弟子三輪順三（三瀬周三の誤りか？）との談話中に賀川玄悦著『産論』の「按腹七術」の記事を載している。その他、子宮マッサージ、乳房マッサージや卵巣などの手法を示し、その應用を提唱する。

特に産婦人科への應用は、広島博愛病院において産婦人科を担当した長瀬時衡がマッサージを最初に試みて、その効果を確信したことは注目されるところである。

おわりに

我が国におけるマッサージ医療は、一八八〇年代にはヨーロッパからの各種のマッサージの學術書が紹介されつつあったが、なおその具体的方法については明らかではなかった。そのような時、橋本綱常が持ち帰ったマッサージ書は、奇しくもオーストリアの“Dr. Albert Reibmayr”がマッサージという優れた新しい治療法を普及させようとする熱意から、一八八二年に出版したマッサージ全書版に基づき初心者にも取得出来るように、その技術を図解入りで“Die Technik der Massage”（一八八四年、初版）として刊行されたものであった。この書を手掛かりに、長瀬時衡は広島博愛病院で実践し、その効果に感嘆して、後に東京にマッサージ専門の私立病院を開設して本格的なマッサージ医療へと発展させていくこととなるのである。そして、更に時衡はこのマッサージの優秀性を広めるために、『萊氏按摩術』として一八九三年（明治二六年）に翻訳刊行して普及に意を尽くしたのであった。

注・参考文献

- (1) 芹澤勝助『按摩マッサージの理論と実技(三版)』三八頁〜四〇頁、医歯薬出版、東京、一九八九年(平成元年)
- (2) 大植四郎編『明治過去帳』六三六頁、東京美術、東京、一九七一年(昭和四十六年)
- (3) 長瀬時衡『按摩法』『第二回日本医学会誌』三六七頁、一八九三年(明治二十六年)
- (4) 河内全節『按摩史料』『中外新報』第三五九号三〇八頁、一八九五年(明治二十八年)(同第三六〇号三六八頁、同第三六一号四三七頁)
- (5) Reibmayr, A.: Die Massage und ihre Verwertung in den verschiedenen Disciplinen der praktischen Medicin, Franz Deuticke, Leipzig und Wien, 1893 (オーストリア国立図書館蔵)
- (6) 河合杏平『西洋按摩術講義應病編』二四五頁〜二五〇頁、南江堂書店、東京、一九一八年(大正七年)
- (7) 長瀬時衡・佐伯理一郎『マッサージ治療法』一頁〜三頁、吐鳳堂、東京、一九〇二年(明治三十五年)
- (8) 大植四郎編『明治過去帳』四一〇頁、東京美術、東京、一九七一年(昭和四十六年)
- (9) 手塚晃・国立教育会館編『幕末明治海外渡航者総覧 第二卷(人物情報編)』二〇三頁、柏書房、東京、一九九二年(平成四年)
- (10) 長瀬時衡『西洋按摩小解(三版)』四一頁〜四三頁、文錦堂、東京、一八九九年(明治三十二年)
- (11) 長瀬時衡訳『氏按摩術』二頁〜三頁、井上書店、東京、一八九三年(明治二十六年)
- (12) Reibmayr, A.: Die Technik der Massage. Franz Deuticke, Leipzig und Wien, 1892 (オーストリア国立図書館蔵)
- (13) (前掲) Reibmayr, A.: Die Massage und ihre Verwertung in den Verschiedenen Disciplinen der Praktischen Medicin. Franz Deuticke, Leipzig und Wien, 1893 (オーストリア国立図書館蔵)
- (14) 足立寛訳『萊氏按摩新論(別名、泰西按摩新論)』文錦堂、東京、一八九五年(明治二十八年) 筆者蔵
- (15) (前掲) Reibmayr, A.: Die Technik der Massage. Franz Deuticke, Leipzig und Wien, 1892 (オーストリア国立図書館蔵)
- (16) (前掲) 長瀬時衡訳『目次』『萊氏按摩術』七頁〜九頁、井上書店、東京、一八九三年(明治二十六年)

(筑波技術短期大学 鍼灸学科)

First Introduction of Massage Treatment in Modern Japan

Tetsuji WAKUDA

In early modern times, massage treatment developed in Europe. During the 1880s and 1890s, it is said that massage treatment was first introduced into Japan. But at the present time it may be said that it is not clearly understood how it was introduced from Europe into Japan and how it was developed there. I will explain the circumstances of how it developed in Japan. In 1884, when Kojo Hashimoto, the chief army doctor, was on a tour of medical missions in Europe, he obtained the illustrated book of massage: "Die Technik der Massage" (first ed. 1884), which was written by Dr. Albert Reibmayr of Austria, and he brought it back to Japan. Following this, Jiko Nagase, an army doctor, actually tried its treatment, using the first illustrated book of massage. He confirmed that massage treatment was a great medical treatment and translated this book into Japanese and published it for its popularisation. I was shown an image of the first massage of Dr. Reibmayr in looking at his first illustrated book in modern Japan. Thus, Kojo Hashimoto brought massage into Japan, and it was spread gradually among government officials and the people.